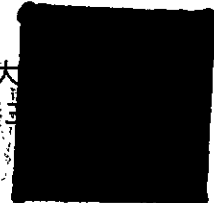


東海北陸厚生局長 殿

学校法人 愛知医科大学
理事長 三宅 養三



愛知医科大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3の規定に基づき、平成21年度の業務に関して報告します。

記

- 1. 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第10)
- 2. 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第11)
- 3. 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	123人
--------	------

 (注)前年度の研修医の実績を記入すること
- 4. 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法 → 別紙参照(様式第12)
- 5. 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績 → 別紙参照(様式第13)
- 6. 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績 → 別紙参照(様式第13)
- 7. 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	365人	163.0人	385.4人	看護補助者	16.0人	診療エックス線技師	0.0人
歯科医師	13人	22.0人	13.7人	理学療法士	15.0人	臨床検査技師	65.0人
薬剤師	67人	4.0人	68.9人	作業療法士	6.0人	衛生検査技師	0.0人
保健師	0人	0.0人	0.0人	視能訓練士	3.0人	その他	0.0人
助産師	20人	0.0人	20.0人	義肢装具士	0.0人	あん摩マッサージ指圧師	0.0人
看護師	830人	18.0人	840.9人	臨床工学士	12.0人	医療社会事業従事者	9.0人
准看護師	13人	0.0人	13.0人	栄養士	0.0人	その他の技術員	40.0人
歯科衛生士	3人	0.0人	3.0人	歯科技工士	2.0人	事務職員	65.0人
管理栄養士	13人	0.0人	13.0人	診療放射線技師	42.0人	その他の職員	21.0人

- (注) 1. 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。
- 2. 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
- 3. 「合計」の欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下第2位を切り捨て、小数点以下第1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計数を記入すること。

8. 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たりの平均入院患者数	624.0人	6.8人	630.8人
1日当たりの平均外来患者数	1,903.6人	67.7人	1,971.3人
1日当たりの平均調剤数			2,968.3剤

- (注) 1. 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
- 2. 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3. 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4. 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

※該当なし

医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば前年度の実績を記入すること。

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱い患者数	疾患名	取扱い患者数
・ベーチェット病	76 人	・膿疱性乾癬	6 人
・多発性硬化症	79 人	・広範脊柱管狭窄症	1 人
・重症筋無力症	141 人	・原発性胆汁性肝硬変	0 人
・全身性エリテマトーデス	656 人	・重症急性膵炎	16 人
・スモン	3 人	・特発性大腿骨頭壊死症	56 人
・再生不良性貧血	45 人	・混合性結合組織病	59 人
・サルコイドーシス	433 人	・原発性免疫不全症候群	3 人
・筋萎縮性側索硬化症	13 人	・特発性間質性肺炎	28 人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	353 人	・網膜色素変性症	52 人
・特発性血小板減少性紫斑病	176 人	・プリオン病	0 人
・結節性動脈周囲炎	27 人	・肺動脈性肺高血圧症	7 人
・潰瘍性大腸炎	235 人	・神経線維腫症	44 人
・大動脈炎症候群	33 人	・亜急性硬化性全脳炎	2 人
・ビュルガー病	52 人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	2 人
・天疱瘡	42 人	・特発性慢性肺血栓塞栓症(肺高血圧型)	2 人
・脊髄小脳変性症	50 人	・ライゾーム病(ファブリー[Fabry]病)含む	3 人
・クローン病	59 人	・副腎白質ジストロフィー	2 人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	2 人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	40 人
・悪性関節リウマチ	8 人	・脊髄性筋萎縮症	5 人
・パーキンソン病関連疾患	380 人	・球脊髄性筋萎縮症	6 人
・アミロイドーシス	34 人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	2 人
・後縦靭帯骨化症	136 人	・肥大型心筋症	76 人
・ハンチントン病	2 人	・拘束型心筋症	1 人
・モヤモヤ病(ウイリス動脈輪閉塞症)	24 人	・ミトコンドリア病	7 人
・ウェゲナー肉芽腫症	203 人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	3 人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	17 人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	9 人
・多系統萎縮症	4 人	・黄色靭帯骨化症	2 人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	1 人	・間脳下垂体機能障害	11 人
(注) 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。		合計	3729 人

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

No.	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額		補助元又は委託元	
						<input checked="" type="checkbox"/> 補 <input type="checkbox"/> 委	
1	非アルコール性脂肪性肝炎発症におけるストレスおよび中枢性神経ペプチドの関与	米田 政志	消化器内科	1,170,000	円	<input checked="" type="checkbox"/> 補 <input type="checkbox"/> 委	日本学術振興会
2	非アルコール性脂肪性肝炎(NASH)の発症・進展における喫煙の影響に関する研究	米田 政志	消化器内科	2,000,000	円	<input checked="" type="checkbox"/> 補 <input type="checkbox"/> 委	喫煙科学研究財団
3	インターフェロン治療における診療アクセスの改善策に関する研究(前向き研究・後ろ向き研究)	米田 政志	消化器内科	800,000	円	<input checked="" type="checkbox"/> 補 <input type="checkbox"/> 委	厚生労働省
4	Angiotensin II 受容体拮抗剤の脂肪性肝炎関連肝臓に対する予防効果	中出 幸臣	消化器内科	2,470,000	円	<input checked="" type="checkbox"/> 補 <input type="checkbox"/> 委	日本学術振興会
5	非アルコール性脂肪性肝炎(NASH)に対するGlucagon like peptide-1 (GLP-1)の投与効果について	中出 幸臣	消化器内科	1,000,000	円	<input checked="" type="checkbox"/> 補 <input type="checkbox"/> 委	平成21年度財団法人 愛恵会教育研究奨励金
6	気管支拡張薬の代謝、効果、および副作用に関する遺伝学的研究	山口 悦郎	呼吸器・アレルギー内科	1,500,000	円	<input checked="" type="checkbox"/> 補 <input type="checkbox"/> 委	厚生労働省
7	びまん性肺疾患に関する調査研究	山口 悦郎	呼吸器・アレルギー内科	500,000	円	<input checked="" type="checkbox"/> 補 <input type="checkbox"/> 委	厚生労働省
8	自己免疫性肺胞蛋白症におけるリツキシマブ使用例の経過	山口 悦郎	呼吸器・アレルギー内科	300,000	円	<input checked="" type="checkbox"/> 補 <input type="checkbox"/> 委	厚生労働省
9	サルコイドーシスにおけるカテプシンSの意義に関する研究	山口 悦郎	呼吸器・アレルギー内科	3,510,000	円	<input checked="" type="checkbox"/> 補 <input type="checkbox"/> 委	日本学術振興会
10	高HDL血症の病態把握のための疫学研究(Japan CETP Deficiency Study Group)	道勇 学	神経内科・脳卒中センター	受領なし	円	<input checked="" type="checkbox"/> 補 <input type="checkbox"/> 委	厚生労働省
11	ALアミロイドーシスに対する血液濾過透析(HDF)による治療効果の検討	今井 裕一	腎臓・リウマチ膠原病内科	1,300,000	円	<input checked="" type="checkbox"/> 補 <input type="checkbox"/> 委	厚生労働省
12	IgA腎症における扁桃パルス療法	今井 裕一	腎臓・リウマチ膠原病内科	100,000	円	<input checked="" type="checkbox"/> 補 <input type="checkbox"/> 委	厚生労働省
13	関節リウマチにおけるサイトカインによる骨芽細胞分化障害の分子機構の解明	山村 昌弘	腎臓・リウマチ膠原病内科	1,300,000	円	<input checked="" type="checkbox"/> 補 <input type="checkbox"/> 委	日本学術振興会
14	難治性血管炎に関する調査研究	山村 昌弘	腎臓・リウマチ膠原病内科	1,300,000	円	<input checked="" type="checkbox"/> 補 <input type="checkbox"/> 委	厚生労働省
15	小児の難治性白血病、骨髄異型性症候群におけるゲノム異常の解析と治療法に関する研究	鶴澤 正仁	小児科	500,000	円	<input checked="" type="checkbox"/> 補 <input type="checkbox"/> 委	厚生労働省
16	小児急性リンパ性白血病における定量的MRD測定方法確立のための研究	鶴澤 正仁	小児科	18,810,000	円	<input checked="" type="checkbox"/> 補 <input type="checkbox"/> 委	がんの子供を守る会
17	小児急性リンパ性白血病の微小残存病変(MRD)の分子生物学的定量法の開発	鶴澤 正仁	小児科	1,000,000	円	<input checked="" type="checkbox"/> 補 <input type="checkbox"/> 委	日本白血病基金
18	第3のガスメッセンジャー硫化水素の誘導性産生機序とその役割の解明	黒川 剛	消化器外科	130,000	円	<input checked="" type="checkbox"/> 補 <input type="checkbox"/> 委	日本学術振興会
19	難治性疾患克服事業 難治性血管炎に関する調査研究	太田 敬	血管外科	1,300,000	円	<input checked="" type="checkbox"/> 補 <input type="checkbox"/> 委	厚生労働省
20	肺血栓塞栓症/深部静脈血栓症(静脈血栓塞栓症)予防ガイドライン改定作業	太田 敬	血管外科	受領なし	円	<input checked="" type="checkbox"/> 補 <input type="checkbox"/> 委	厚生労働省
21	乳癌転移に関与する細胞間質内SHAP-HA複合体と循環血液中腫瘍細胞との関係解析	藤井 公人	乳腺内分泌外科	1,800,000	円	<input checked="" type="checkbox"/> 補 <input type="checkbox"/> 委	日本学術振興会
22	乳腺石灰化病変の良悪性鑑別におけるコラーゲン(IV型)の役割	中野 正吾	乳腺内分泌外科	500,000	円	<input checked="" type="checkbox"/> 補 <input type="checkbox"/> 委	愛知健康増進財団
23	脊髄障害性疼痛症候群の実体の把握と病態の解明に関する研究	高安 正和	脳神経外科	1,000,000	円	<input checked="" type="checkbox"/> 補 <input type="checkbox"/> 委	厚生労働省
24	脳脊髄減少症の診断・治療の確立に関する研究	高安 正和	脳神経外科	1,000,000	円	<input checked="" type="checkbox"/> 補 <input type="checkbox"/> 委	厚生労働省

(注) 1. 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2. 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3. 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」、委託の場合には「委」に「レ」をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

小計24件

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

No.	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額		補助元又は委託元	
						<input type="checkbox"/> 補	<input type="checkbox"/> 委
25	妊娠中の酸化ストレスおよび子宮内感染に対するメラトニンの脳機能保護作用機序の解明ー子宮内感染に対し、炎症性サイトカインに着目してー	若槻 明彦	産科婦人科	2,000,000	円	<input checked="" type="checkbox"/> 補	(財)おぎやー献金基金
26	急性肺障害における血管内皮前駆細胞の動態解析:自家移植による再生治療の試み	武山 直志	救命救急科	2,860,000	円	<input checked="" type="checkbox"/> 補	日本学術振興会
27	熱傷と免疫異常:焼痂由来物質alarminの関与	森實 瑠里	救命救急科	1,040,000	円	<input checked="" type="checkbox"/> 補	日本学術振興会
28	救急救命士の処置拡大について	野口 宏	救命救急科	1,100,000	円	<input checked="" type="checkbox"/> 補	厚生労働省
29	輸血副作用把握体制の確立 -特に免疫学的副作用の実態把握とその対応-	高本 滋	輸血部	5,850,000	円	<input checked="" type="checkbox"/> 補	厚生労働省
30	輸血副作用把握体制の確立 -特に免疫学的副作用の実態把握とその対応-	加藤 栄史	輸血部	受領なし	円	<input checked="" type="checkbox"/> 補	厚生労働省
31	輸血副作用把握体制の確立 -特に免疫学的副作用の実態把握とその対応-	宇留間 元昭	輸血部	受領なし	円	<input checked="" type="checkbox"/> 補	厚生労働省
32	輸血副作用把握体制の確立 -特に免疫学的副作用の実態把握とその対応-	安藤 高宣	輸血部	受領なし	円	<input checked="" type="checkbox"/> 補	厚生労働省
33	日本における血液製剤の副作用サーベイランス体制の確立に関する研究	高本 滋	輸血部	受領なし	円	<input checked="" type="checkbox"/> 補	厚生労働省
34	日本における血液製剤の副作用サーベイランス体制の確立に関する研究	加藤 栄史	輸血部	受領なし	円	<input checked="" type="checkbox"/> 補	厚生労働省
35	腰痛の診断、治療法に関する研究:痛み・しびれの可視化技術の確立並びに、MRIを用いた脊髄投射路及び末梢神経イメージング法の確立	牛田 享宏	学際的痛みセンター	3,000,000	円	<input checked="" type="checkbox"/> 補	厚生労働省
36	脊髄障害性疼痛症候群の実態の把握と病態の解明に関する研究	牛田 享宏	学際的痛みセンター	26,000,000	円	<input checked="" type="checkbox"/> 補	厚生労働省
37	関節不動化による患肢廃用モデル動物における神経系の機能変化に関する研究	牛田 享宏	学際的痛みセンター	910,000	円	<input checked="" type="checkbox"/> 補	日本学術振興会
38	Cold Allodyniaにおける温度セルセンサーの機能変化メカニズムの解析	牛田 享宏	学際的痛みセンター	500,000	円	<input checked="" type="checkbox"/> 補	日本学術振興会
39	Cold Allodyniaにおける温度セルセンサーの機能変化メカニズムの解析	新井 健一	学際的痛みセンター	2,990,000	円	<input checked="" type="checkbox"/> 補	日本学術振興会
40	コンプレキシンII遺伝子欠損マウスを用いたストレス脆弱性メカニズムの研究	西原 真理	学際的痛みセンター	1,690,000	円	<input checked="" type="checkbox"/> 補	日本学術振興会
41	抗原特異的細胞障害性T細胞(CLT)の閉鎖調整キットの開発とその臨床応用	吉川 和宏	学際的痛みセンター	2,969,119	円	<input checked="" type="checkbox"/> 補	財)科学技術交流財団

(注) 1. 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
 2. 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
 3. 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」、委託の場合には「委」に「レ」をつけた上で、補助元又は委託元を記入す

小計17件

合計41件

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

No.	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
1	Biol Psychol . 82(1):25-32	Transient responses of inflammatory cytokines in acute stress	米田 政志	消化器内科
2	Neurogastroenterol Motil .21(8):856-9	Inhibitory effect of oxytocin on accelerated colonic motility induced by water-avoidance stress in rats	米田 政志	消化器内科
3	World Journal of Gastroenterology .15(11):1367-72	Investigation and prediction of enteral nutrition problems after percutaneous endoscopic gastrostomy	米田 政志	消化器内科
4	クリニシャン.56:73-4	この患者をどう診断するか—長期の海外生活から帰国後に高熱、右季肋部痛を訴えた1例	米田 政志	消化器内科
5	成人病と生活習慣病.39:413-7	ストレスと肝疾患	米田 政志	消化器内科
6	Brain Behav Immun.23(7):931-5	Association of polymorphism in the human mu-opioid receptor OPRM1 gene with proinflammatory cytokine levels and health perception	春日井 邦夫	消化器内科
7	日本消化器内視鏡学会誌.51:1269-83	胃食道逆流症の内視鏡治療	春日井 邦夫	消化器内科
8	Hepato Res.39(1):21-30	Effect of ursodeoxycholic acid on serum liver enzymes and bile acid metabolism in chronic active hepatitis C virus infection.	中尾 春壽	消化器内科
9	日本臨床.129-31	広範囲 血液・尿化学検査 免疫学的検査—その数値をどう読むか—グリココール酸(CG)	中尾 春壽	消化器内科
10	J Gastroenterol.44(11):1162-4	The intertwined correlations among non-alcoholic fatty liver disease, atherosclerosis, and metabolic syndrome.	中尾 春壽	消化器内科
11	Mebio.26:82-9	NASH(non-alcoholic steatohepatitis).	中尾 春壽	消化器内科
12	日本臨床.別冊消化管症候群(上):368-8	【消化管症候群(第2版) その他の消化管疾患を含めて】胃 胃石	中尾 春壽	消化器内科
13	Am J Physiol Gastrointest Liver Physiol.298:G255-66	Blockage of Angiotensin II type 1 receptor regulates TNF-[alpha] induced MAdCAM-1 expression via inhibition of NF-[kappa]B translocation to nucleus and ameliorates colitis.	佐々木 誠人	消化器内科
14	Digestive Endoscopy.21(4):258-61	An endocrine cell carcinoma with gastric-and-intestinal mixed phenotype adenocarcinoma component in the stomach.	佐々木 誠人	消化器内科
15	Int J Clin Oncol.14(3):266-9	Combination chemotherapy with cisplatin and gemcitabine in malignant peritoneal mesothelioma.	佐々木 誠人	消化器内科
16	Hepatogastroenterology.56(9 0):547-50	Lentinan with S-1 and Paclitaxel for gastric cancer chemotherapy improve patient quality of life.	佐々木 誠人	消化器内科
17	Hepatogastroenterology.56(9 0):542-6	Gastric phenotypic expression and histogenesis of metachronous gastric cancers endoscopically resected.	佐々木 誠人	消化器内科
18	J Gastroenterol Hepatol.24(8):1358-64	Feasibility of self-expandable metallic stent plus chemotherapy for metastatic gastric cancer with pyloric stenosis.	佐々木 誠人	消化器内科
19	Hepatogastroenterology.56(8 9):106-10	Advanced stomach and pancreas cancer successfully treated with combination chemotherapy with S-1/paclitaxel/lentinan.	佐々木 誠人	消化器内科
20	J. Clin. Gastroenterol.43(3):249-52	Gastroesophageal and laryngopharyngeal reflux symptoms correlated with histopathological inflammation of the upper and lower esophagus.	佐々木 誠人	消化器内科

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

小計20件

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

No.	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
21	J Gastroenterol.44(3):183-9	Impaired gastric motility and its relationship to reflux symptoms in patients with nonerosive gastroesophageal reflux disease.	佐々木 誠人	消化器内科
22	消化管と免疫.46:126-9	マウス大腸血管内皮細胞における1型アンジオテンシンII受容体を介した接着因子MAdCAM-1の発現調節—腸炎への治療応用を目指して—	佐々木 誠人	消化器内科
23	Functional Food.3(2):131-5	【消化器疾患と機能性食品】酵素を利用した無理のない食生活による疾病予防の試み	佐々木 誠人	消化器内科
24	消化器診療.85:19-21	低用量アスピリンと出血性潰瘍 緊急内視鏡検査患者285名の解析から	佐々木 誠人	消化器内科
25	第94回日本消化器病学会総会記念誌.411-3	胃型・腸型形質発現およびマイクロサテライト不安定性からみた胃癌の自然史	佐々木 誠人	消化器内科
26	Ulcer Reserch.36(1):200-2	Functional dyspepsiaに対するプロトンポンプ阻害剤の効果	佐々木 誠人	消化器内科
27	Helicobacter Research.13(1):43-7	Helicobacter pylori 除菌後胃癌の胃型・腸型形質発現-スナネズミモデルの検討-(特集 Helicobacter pylori除菌後胃癌の特徴)	佐々木 誠人	消化器内科
28	消化器心身医学.16(1):98-102	神経症圏と診断されたプロトンポンプ不応性非びらん性胃食道逆流症の病態と治療経過	舟木 康	消化器内科
29	心身医学.49(7):799-806	消化管機能からみた腹部膨感、上腹部痛の解釈	舟木 康	消化器内科
30	Digestive Endoscopy.21(3):192-5	Gastric schwannoma with adjacent external progression harbored aberrant NF2 gene.	小笠原 尚高	消化器内科
31	Br J Cancer.100(8):1320-9	BCL6 degradation caused by the interaction with the C-terminus of pro-HB-EGF induces cyclin D2 expression in gastric cancers.	小笠原 尚高	消化器内科
32	Oncol Rep.21:107-12	Gastric-and-intestinal mixed endocrine cell phenotypic expression of carcinoid tumors in the rectum.	小笠原 尚高	消化器内科
33	Clin J Gastroenterol.2(6):404-7	Successful treatment for pouchitis with rebamipide refractory to a combination of metronidazole (MNZ) and ciprofloxacin (CFX).	小笠原 尚高	消化器内科
34	消化器心身医学.16(1):108-11	不快、胃生理機能、ディスペプシアの関係 ストレス負荷実験からの示唆	飯田 章人	消化器内科
35	消化器科.48(4):423-9	Functional Dyspepsia(FD)の新たな展開 消化管運動改善薬、酸分泌抑制薬がFD症状を改善させるメカニズム	飯田 章人	消化器内科
36	Neurosci Lett.453(3):147-50	Chronic restraint stress has no more stimulatory effects on colonic motility in rats.	中出 幸臣	消化器内科
37	現代医学.56(2):281-7	【肝臓疾患の最近の話題】薬物性肝障害	中出 幸臣	消化器内科
38	診断と治療.97(4):839-43	NAFLD、NASH治療におけるARBの可能性	中出 幸臣	消化器内科
39	Hepatology Research.39(5):510-9	Inflammatory cytokines modulate chemokine production patterns of HepG2 cells toward initially inclined direction	大橋 知彦	消化器内科
40	Inflammation	Involvement of heme oxygenase-1 Kaempferol-induced anti-allergic actions in RBL-2H3 cells.	馬場 研二	呼吸器・アレルギー内科

(注)1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

小計20件

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

No.	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
41	Occup Environ Allergy	Inhibition of degranulation by myricetin-induced heme oxygenase-1 mast cells.	馬場 研二	呼吸器・アレルギー内科
42	Allergology International	Adherence with long-term asthma management in patients who experienced hospitalized asthma exacerbation.	馬場 研二	呼吸器・アレルギー内科
43	Inflammation Research	Heme oxygenase-1 mediates the anti-allergic actions of Quercetin in rodent mast cells.	馬場 研二	呼吸器・アレルギー内科
44	J Thorac Oncol.	Response rate is associated with prolonged survival in patients with advanced non-small cell lung cancer treated with gefitinib or erlotinib	久保 昭仁	呼吸器・アレルギー内科
45	J Biol Chem. 2009 284(33):22059-66.	TDP-43 depletion induces neuronal cell damage through dysregulation of Rho family GTPases.	Iguchi Y	神経内科
46	J Neurosci Res 2010;88:123-135	Dorfin ameliorates phenotypes in a transgenic mouse model of amyotrophic lateral sclerosis	Niwa J	神経内科・脳卒中センター
47	Ann Neurol 2009;65:140-150	phase 2 trial of leuprorelin in patients with spinal and bulbar muscular atrophy	Doyu M	神経内科・脳卒中センター
48	医学のあゆみ 2009;229(5):313-318	ALアミロイド線維形成およびアミロイド線維分野の機序	今井 裕一	腎臓・リウマチ膠原病内科
49	日本内科学会雑誌 2009;98(5):1042-1047	二次性ネフローゼ症候群の病態 1. 全身性疾患とネフローゼ症候群	今井 裕一	腎臓・リウマチ膠原病内科
50	Peritoneal Dialysis International 2009; 29: 528-535	Novel Low Na peritoneal dialysis solutions designed to optimize Na gap of effluent: Kinetics of Na and water removal	今井 裕一	腎臓・リウマチ膠原病内科
51	Clin Exp Nephrol 2010; 14:164-167	Torsades de Pointes induced by a combination of garenoxacin and disopyramide and other cytochrome P450, family 3, subfamily A polypeptide-4-influencing drugs during hypokalemia due to licorice	今井 裕一	腎臓・リウマチ膠原病内科
52	腹膜透析2009; 2009; 66S: 40-42	腹膜機能と炎症・栄養障害	菅 憲広	腎臓・リウマチ膠原病内科
53	腹膜透析2009; 2009; 66S: 192-194	腹膜透析カテーテル留置法によるカテーテルのピストン運動と出口部・トンネル感染との関連	菅 憲広	腎臓・リウマチ膠原病内科
54	腹膜透析2009; 2009; 66S: 201-202	CAPDカテーテル出口部感染症の解析	菅 憲広	腎臓・リウマチ膠原病内科
55	腹膜透析2009; 2009; 66S: 226-228	カテーテル熱接合システム使用中に動物の体毛付着による接合トラブルを生じた1例	木村 行宏	腎臓・リウマチ膠原病内科
56	Clin Exp Nephrol 2010; 14:90-93	An IgA1-lambda-type monoclonal immunoglobulin deposition disease associated with membranous features in a patient with chronic hepatitis C viral infection and rectal cancer	三浦 直人	腎臓・リウマチ膠原病内科
57	Clin Exp Nephrol 2009; 13: 85-88	Massive proteinuria and acute renal failure after oral bisphosphonate (alendronate) administration in a patient with focal segmental glomerulosclerosis	三浦 直人	腎臓・リウマチ膠原病内科
58	Clin Exp Nephrol 2009; 13:460-466	Tonsillectomy and steroid pulse (TSP) therapy for patients with IgA nephropathy: a nationwide survey of TSP therapy in Japan and an analysis of the predictive factors for resistance to TSP therapy	三浦 直人	腎臓・リウマチ膠原病内科
59	Mod Rheumatol 19(4):351-357, 2009	Japan College of Rheumatology 2009 guidelines for the use of tocilizumab, a humanized anti-interleukin-6 receptor monoclonal antibody, in rheumatoid arthritis.	山村 昌弘	腎臓・リウマチ膠原病内科
60	日本医事新報 4438: 78-79,2009	Q&A HBVキャリアの関節リウマチの治療	山村 昌弘	腎臓・リウマチ膠原病内科

(注)1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

小計20件

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

No.	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
61	Current Therapy 27(6): 62-67, 2009	特集 関節リウマチー早期治療のインパクトとピットフォール、治療薬解説 メトレキサートー関節リウマチにおける使い方とリスクマネジメント	山村 昌弘	腎臓・リウマチ膠原病内科
62	日本脊椎炎学会誌 1(2):69-73, 2009	中年期に診断された胸肋鎖関節病変を伴う強直性脊椎炎の2例	山村 昌弘	腎臓・リウマチ膠原病内科
63	リウマチ科 42(3): 295-301, 2009	特集 わが国で使用可能な関節リウマチに対する生物学的製剤のエビデンスを整理する。トシリズマブー欧米のエビデンス (CHARISMA, OPTION, TOWARD, AMBITION, RADIATE, LITHE試験)	山村 昌弘	腎臓・リウマチ膠原病内科
64	臨床研修プラクティス 10(3): 55-61, 2010	特集 研修医のための膠原病診療ガイド。II. 各論: 頻度の高い膠原病。4 血管炎症候群	山村 昌弘	腎臓・リウマチ膠原病内科
65	日本臨牀68(増刊号5): 231-234, 2010	関節リウマチ(第2版)ー寛解を目指す治療の新時代ー。IV 関節リウマチの検査・診断。5. 一般血液学的検査と尿・便検査。	山村 昌弘	腎臓・リウマチ膠原病内科
66	日本臨牀68(増刊号5): 347-351, 2010	関節リウマチ(第2版)ー寛解を目指す治療の新時代ー。V 関節リウマチの治療。4) 集学的治療 a. 内科的立場。	山村 昌弘	腎臓・リウマチ膠原病内科
67	宮坂信之編集, 医薬ジャーナル社 大阪 p28-31 (2009/10/20)	総論 5 生物学的製剤の効果を最大限に引き出すためには? ~単独, 併用? ~。正しい生物学的製剤の使い方 関節リウマチ	山村 昌弘	腎臓・リウマチ膠原病内科
68	内科学書 改訂第7版 Vol. 1 小川 聡総編集, 伴信太郎・山本和利部門編, 中山書店 東京 p184-187	内科学総論 治療学 各種の薬物療法 4 免疫抑制薬	山村 昌弘	腎臓・リウマチ膠原病内科
69	内科学書 改訂第7版 Vol. 2 小川 聡総編集, 後藤 元・三森経世・大田 健・三島理晃部門編集, 中山書店 東京 p229-230 (2009/11/10)	膠原病, リウマチ性疾患 Weber-Christian病	山村 昌弘	腎臓・リウマチ膠原病内科
70	Leukemia Res. 2009;33:1650-1657	Growth inhibition of AML cells with specific chromosome abnormalities by monoclonal antibodies to receptors for vascular endothelial growth factors	三輪 啓志	血液内科
71	精神神経学雑誌 2009特別 ;S-422	てんかん診断における精神医学	兼本 浩祐	精神神経科
72	日本病跡学雑誌 2009;78:26-33	いま、漫画の表層、漫画の深層 未来への投企と桃源郷 教養小説としてのマンガとサザエさんの日常の反復	兼本 浩祐	精神神経科
73	てんかん研究 2009;27(2):200-201	てんかんと精神症状 てんかん性精神病を理解するために Slaterの問いに答える試み	兼本 浩祐	精神神経科
74	精神医学史研究 2009;13(1):6-12	精神医学における医学史研究のアクチュアリティ 最新の知見は何故精神医学において唯一の知の到達点とならないのか	兼本 浩祐	精神神経科
75	老年精神医学雑誌 2009;20(10):1107-1111	【認知症の診療に役立つ神経心理学】 他人の手徴候の特徴とその評価法	兼本 浩祐	精神神経科
76	てんかん研究 2009;26(3):478-482	心因性非てんかん性発作(いわゆる偽発作)に関する診断・治療ガイドライン	兼本 浩祐	精神神経科
77	精神神経学雑誌 2009;111(4):460-465	精神科医に必要なてんかん診断のための基礎知識	兼本 浩祐	精神神経科
78	てんかん研究 2009;27(2):269	Dacrystic Seizureと推定された1症例	加藤 悦史	精神神経科
79	てんかん研究 2009;27(2):281	側頭葉てんかんに合併する抑うつ症状と攻撃性におけるラモトリギンの臨床効果について	加藤 裕子	精神神経科
80	精神神経学雑誌 2009;111(7):881-882	修正型電気痙攣療法(m-ECT)を実施し致死的不整脈を呈した1例	千田 真典	精神神経科

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

小計20件

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

No.	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
81	精神神経学雑誌 2009;111(7):883	非定型抗精神病薬の中樞ドーパミン放出に対する効果の検討	木村 仁	精神神経科
82	精神神経学雑誌 2009;111(7):882-883	NSAIDs服用がきっかけでリチウム中毒となった双極性障害の一例	桜井 礼二	精神神経科
83	てんかん研究 2009;27(2):266	てんかんに対するLTG(ラモトリギン)の有用性	曾根 健介	精神神経科
84	精神科治療学 2009;24(2):181-186	【夜、寝ている時に起こる異常行動】前頭葉てんかん	大島 智弘	精神神経科
85	Pediatr Blood Cancer 52:591-595,2009	Retrospective analysis of relapsed or primary refractory childhood lymphoblastic lymphoma in Japan.	鶴澤 正仁	小児科
86	Int J Hematol 90:492-500, 2009	A study of rasburicase for the management of hyperuricemia in pediatric patients with newly diagnosed hematologic malignancies at high risk for tumor lysis syndrome.	鶴澤 正仁	小児科
87	Int J Hematol 90:370- 373,2009	Detection of submicroscopic disease in the bone marrow and unaffected testis of a child with T-cell acute lymphoblastic leukemia who experienced "isolated" testicular relapse.	鶴澤 正仁	小児科
88	日小血会誌 23:20-26,2009	小児再発ALLにおける分子生物学的微小残存病変(MRD)定量の臨床的意義	鶴澤 正仁	小児科
89	Jpn J Pediatr Hematolo 23:244-250, 2009	Outcomes of 59 children with lymphoblastic lymphoma receiving an intensive ALL-type therapy without prophylactic cranial irradiation.	鶴澤 正仁	小児科
90	Experimental oncology2009.9; 31(3):144-8	In vivo anti-tumor activities of gelatin	永田 博	消化器外科
91	消化器外科 2009.4;32(5):632-635	【消化器癌～診断・治療のすべて】臨床症状からの癌診断プロセス 悪心、嘔吐、胸やけ	宮地 正彦	消化器外科
92	日本外科系連合学会誌 2009.4;34(2):157-161	切除不能大腸癌肝転移に対するラジオ波焼灼療法	小竹 克博	消化器外科
93	日本臨床外科学会雑誌 2009.6;70(6):1731-1734	悪性リンパ腫の化学療法中に発症した小腸穿孔の1例	小竹 克博	消化器外科
94	日本小児外科学会雑誌 2009.5;45(3):677	小児急性虫垂炎に対するニューキノロン系抗菌薬の可能性	勝野 伸介	消化器外科
95	愛知医科大学医学会雑誌 2009.12;37(1/2/3/4):55-9	卵巣癌S状結腸転移の1例	鈴村 和義	消化器外科(中央手術部)
96	愛知医科大学医学会雑誌 2009.12;37(1/2/3/4):61-4	特発性腹部直腸穿孔の1例	中尾 野生	消化器外科
97	日本門脈圧亢進症学会雑誌 2009.11;15(3):217-20	Editorial 門脈圧亢進症に対する外科手術の役割	野浪 敏明	消化器外科
98	脈管学 49:299-306,2009	歩行機能と病変形態からみた間歇性跛行の治療-TASC IIの適応をふまえて-	太田 敬	血管外科
99	Circulation Journal 72:1253- 1346,2008	脳血管障害、腎機能障害、末梢血管障害を合併した心疾患の管理に関するガイドライン	太田 敬	血管外科
100	Angiology Frontier 8:96- 100,2009	医師からみた間歇性跛行の機能評価-トレッドミル検査の重要性-	太田 敬	血管外科

(注)1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

小計20件

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

No.	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
101	Circulation Journal 72:11465-1579,2008	血管炎症候群の診療ガイドライン「診断法及び診断基準」	太田 敬	血管外科
102	最新医学 別冊:9-16,2009	新しい診断と治療のABC60;閉塞性動脈硬化症の概念、定義	太田 敬	血管外科
103	Vascular Lab 5:194-198,2009	血管疾患の診断とモダリティ-7, 下肢静脈;表在1機能検査	太田 敬	血管外科
104	Surgery Today 39 :518-522,2009	Endovascular repair for a descending thoracic aortic aneurysm with a stent-graft covering the celiac artery:Report of two cases.	Hiroyuki Ishibashi	血管外科
105	Vascular Lab 6:169-173,2009	救急診療と血管検査	杉本 郁夫	血管外科
106	Surgery Today 39:9-13,2009	Evaluation of ischemic limbs by transcutaneous carbon dioxide tension.	Ikuo Sugimoto	血管外科
107	日本血管外科学会雑誌 18:43-48,2009	間歇性跛行患者における日常運動状況の検討	杉本 郁夫	血管外科
108	脈管学 49:9-13,2009	間歇性跛行評価ツールであるWIQの使用法	杉本 郁夫	血管外科
109	診断と治療 97:2417-2421,2009	間歇性跛行に対する運動療法	杉本 郁夫	血管外科
110	J Cancer Res Clin Oncol.2010;136:939-44.	Evaluation of Oncotype DX Recurrence Score as a prognostic factor in Japanese women with estrogen receptor-positive,node-negative primary Stage I or IIA breast cancer.	Yorozuya K	乳腺内分泌外科
111	Jpn J Clin Oncol.2009;39:552-9	Fusion of MRI and sonography image for breast cancer evaluation using real-time virtual sonography with magnetic navigation:first experience	Nakano S	乳腺内分泌外科
112	Breast Cancer.2010;17:146-50	Intracystic invasive papillary carcinoma of the male breast with analyses of loss of heterozygosity on chromosome 16q	Yoshida M	乳腺内分泌外科
113	日本ストーマ・排泄会誌.2009;25:1-8	ストーマ保有者における灌注排便法と自然排便法のQOL比較	藤井 公人	乳腺内分泌外科
114	Surgical Neurology 71: 115-120, 2009	Chordoid glioma with calcification and neurofilament expression: case report and review of the literature.	高安 正和	脳神経外科
115	J Neurotrauma 26:1157-1165, 2009	Modification of endothelial nitric oxide synthase through AMPK after experimental subarachnoid hemorrhage.	大須賀 浩二	脳神経外科
116	J Neurotrauma 27: 403-410, 2010	Taurine reduces inflammatory responses after spinal cord injury.	大須賀 浩二	脳神経外科
117	Neurosurgery 65: 1178-81, 2009	Anterolateral approach without fixation for resection of an intradural schwannoma of the cervical spinal canal: technical note.	安田 宗義	脳神経外科
118	脊椎脊髄ジャーナル 22: 929-935, 2009	腰椎疾患のpseudolocalizing sign	安田 宗義	脳神経外科
119	Brain and Nerve 61:637-644, 2009	頸椎疾患に対する低侵襲手術	高安 正和	脳神経外科
120	Photodermatol Photoimmunol Photomed.	Heating increases protoporphyrin IX production in normal skin after delivery of 5-aminolevulinic acid by iontophoresis.	Ishida N	皮膚科

(注)1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

小計20件

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

No.	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
121	Eur J Dermatol.	Herpes zoster occurring as a solitary vesicular in malignant lymphoma.	Ishida N	皮膚科
122	Clin Exp Dermatol.	Etretinate enhances the susceptibility of human skin squamous cell carcinoma cells to 5-aminolaevulinic acid-based photodynamic therapy.	Ishida N	皮膚科
123	Int J STD AIDS	Herpes zoster of the nipple: rapid DNA-based diagnosis by the loop-mediated isothermal amplification method.	Watanabe D	皮膚科
124	Photodermatol Photoimmunol Photomed.	Photodynamic therapy using direct-current pulsed iontophoresis for 5-aminolevulinic acid application.	Mizutani K	皮膚科
125	J Cutan Pathol.	Reduction in QSART and vasoactive intestinal polypeptide expression in the skin of Parkinson's disease patients and its relation to dyshidrosis.	Kawada M	皮膚科
126	Eur J Dermatol.	Psoriasiform and pustular eruption induced by etanercept and infliximab.	Kuhara T	皮膚科
127	Acta Derm Venereol.	Photodynamic therapy following carbon dioxide laser enhances efficacy in the treatment of extramammary Paget's disease.	Fukui T	皮膚科
128	Photodermatol Photoimmunol Photomed.	A pilot study to assess the efficacy of photodynamic therapy for Japanese patients with actinic keratosis in relation to lesion size and histological severity.	Nakano A	皮膚科
129	Aesthetic Dermatology	【日光角化症の治療】 PDT(光線力学的療法)を用いた日光角化症の治療.	中野 章希	皮膚科
130	J Eur Acad Dermatol Venereol.	Sarcoid tissue reaction on herpes zoster scars in a myelodysplastic syndrome patient: Wolf's isotopic response.	Watanabe D	皮膚科
131	デルマ	エキシマダイレーザを用いた皮膚腫瘍に対するPDT.	秋田 洋一	皮膚科
132	Jpn J Endourol ESWL 2009.22:261-264	The clinical outcome of transurethral lithotripsy for urinary tract stones.	Nakamura K	泌尿器科
133	Cases Journall 2009.17: 7780	Holmium YAG laser ablation of a hemangioma involving a lower pole renal calyx: Using the new-generation flexible ureteroscope URF type P5:a case report.	Nakamura K	泌尿器科
134	BMC Urology 2009.10:9;12	Utility of serial urinary cytology in the initial evaluation of the patient with microscopic hematuria.	Nakamura K	泌尿器科
135	Oncology Letters 2010.1:13-16	The use of zoledronic acid in Japanese men with stage D2 prostate cancer.	Nakamura K	泌尿器科
136	Cancer Chemother Pharmacol 2009.64:1079-1083	Preliminary results of M-VAC chemotherapy combined with mild hyperthermia, a new therapeutic strategy for advanced or metastatic transitional cell carcinoma of the urothelium.	Yamada Y	泌尿器科
137	Molecular Medicine Reports 2009.2:411-415	Combining anti-tumor drugs with mild hyperthermia increases the cytotoxic effects of drugs on human leukemia cells in vitro.	Itoh Y	泌尿器科
138	Experimental and Therapeutic Medicine 2010.1:319-323	Combination of chemotherapy and mild hyperthermia enhances the anti-tumor effects of cisplatin and adriamycin in human bladder cancer T24 cells in vitro.	Itoh Y	泌尿器科
139	BMC Urology 2010.10:6	Association between gefitinib and hemorrhagic cystitis and severely contracted bladder: a case report.	Arakawa M	泌尿器科
140	Neonatology	Therapeutic effects of maternal melatonin administration on ischemia/reperfusion-induced oxidative cerebral damage in neonatal rats	Watanabe K	産科婦人科

(注)1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

小計20件

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

No.	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
141	Hypertens Res	Adipocytokines and endothelial function in preeclamptic women	Mori T	産科婦人科
142	J Aichi Med Univ Assoc	Endothelial function and oxidative stress in women with endometriosis	Kanyama A	産科婦人科
143	J Aichi Med Univ Assoc	Role of hyaluronan synthase, hyaluronan and serum-derived hyaluronan-associated protein (SHAP)-hyaluronan complex in endometrial cancer	Kanyama K	産科婦人科
144	東海産科婦人科学会雑誌	悪性転化を伴う卵巣成熟奇形種の臨床的検討	衣笠 祥子	産科婦人科
145	Neurochem Int.	Distinct response to heparin by two chicken brain type creatine kinase subunits.	Kataoka T	眼科
146	Ophthal Plast Reconstr Surg	The levator aponeurosis contains smooth muscle fibers; new findings in Caucasians.	Kakizaki H	眼科
147	Ann Plast Surg	Upper Eyelid Anatomy: An Update.	Kakizaki H	眼科
148	Ann Plast Surg	Lower Eyelid Anatomy: An Update.	Kakizaki H	眼科
149	Ophthalmology	Orbital Septum Attachment on the Levator Aponeurosis in Asians In Vivo and Cadaver Study.	Kakizaki H	眼科
150	Ophthalmology	Lower eyelid retractors in Caucasians.	Kakizaki H	眼科
151	Ophthal Plast Reconstr Surg	Medial and lateral horns of the lower eyelid retractors.	Kakizaki H	眼科
152	Ophthalmology.	Binocular single vision field.	Kakizaki H	眼科
153	Int Ophthalmol Clin.	Oculoplastic surgery for lower eyelid reconstruction after periocular cutaneous carcinoma.	Kakizaki H	眼科
154	Ophthalmology	Lacrimal canaliculus.	Kakizaki H	眼科
155	Ophthal Plast Reconstr Surg	Hemangiopericytoma-solitary fibrous tumor of the eyelid.	Kakizaki H	眼科
156	Ophthalmology	Dynamic study of the medial and lateral recti capsulopalpebral fasciae using cine mode magnetic resonance imaging.	Kakizaki H	眼科
157	Ophthalmology	Cilial entropion: surgical outcome with a new modification of the Hotz procedure.	Kakizaki H	眼科
158	Am J Ophthalmol.	Peripheral branching of levator superioris muscle and Müller muscle origin.	Kakizaki H	眼科
159	Clin Ophthalmol.	Eyelash inversion in epiblepharon: Is it caused by redundant skin?	Kakizaki H	眼科
160	Ann Plast Surg.	Upper eyelid anatomy: an update.	Kakizaki H	眼科

(注)1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

小計20件

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

No.	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
161	Ophthalmology	Orbital septum attachment on the levator aponeurosis in Asians: in vivo and cadaver study.	Kakizaki H	眼科
162	Acta Derm Venereol 89:221-2, 2009	ortous innominate artery simulating a supraclavicular subcutaneous tumor.	Tanigawa T	耳鼻咽喉科
163	Acta Otolaryngol 15:1-8 2009	Effects of MRI contrast agents (Omniscan) on vestibular end organs	Tanigawa T	耳鼻咽喉科
164	頭頸部外科 19(2):141-146	耳鼻咽喉科領域における手術部位感染防止を目的とした周術期抗菌薬投与法の再考	清 一哲	耳鼻咽喉科
165	耳鼻咽喉科臨床103巻2号 P131-137(2010.02)	内頸動脈瘤を併発した蝶形骨洞アスペルギルス症例	小川 徹也	耳鼻咽喉科
166	Lisa 16(1):42-45,2009	肺に合併症がある患者:超音波装置を用いた腸骨筋膜下ブロック(FICB)で確実に、安全に	伊藤 洋	麻酔科
167	麻酔科学レビュー2009 ー最新主要文献集ー 118-123,2009	バランス麻酔	小松 徹	麻酔科
168	麻酔 58(7):820-831,2009	新しい循環系モニタリングーその有用性と限界ー 心電図から得られる指標: 1. 心拍変動解析	小松 徹	麻酔科
169	日本歯科麻酔学会雑誌 37(2):121-128,2009	臨床麻酔における心拍変動解析	藤原 祥裕	麻酔科
170	麻酔 58 sup:201-210,2009	超音波画像による急性呼吸不全の鑑別診断	藤原 祥裕	麻酔科
171	麻酔 59(1):67-74,2010	麻酔・集中治療における肺の超音波診断学	藤原 祥裕	麻酔科
172	J Anesth 23:298-300,2009	Serum concentration of lidocaine after transversus abdominis plane block.	Y. Fujiwara	麻酔科
173	Acta Anaesthesiol Scand 53:476-482,2009	Sympathovagal effects of spinal anaesthesia with intrathecal or intravenous fentanyl assessed by heart rate variability.	Y. Fujiwara	麻酔科
174	J Arthroplasty 25:170,2010	Is peripheral nerve block under thromboprophylaxis really safe?	Y. Fujiwara	麻酔科
175	J ECT 26:37-40,2010	Prolongation of QT interval induced by electroconvulsive therapy is attenuated by landiolol.	Y. Fujiwara	麻酔科
176	Acta Anaesthesiol Scand 53:404-405,2009	Severe hypotension during the development of low-nodal junctional rhythm.	Y. Asakura	麻酔科
177	日本心療内科学会誌	心療内科領域でのトラウマ臨床としてのEMDRの有用性	山口 力	総合診療科
178	熱傷	遊離植皮における剣山ドレナージの工夫	小田 真喜子	形成外科
179	日本形成外科学会誌	レーザー照射開始年齢が単純性血管腫の治療効果に及ぼす影響	小栗 章子	形成外科
180	形成外科	血管奇形の治療戦略 頭頸部動静脈奇形の外科的治療 ー塞栓術と切除再建術ー	横尾 和久	形成外科

(注)1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

小計20件

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

No.	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
181	日本形成外科学会誌	三角弁とZ形成を組み合わせた埋没耳手術	松原 真依子	形成外科
182	エンドトキシン血症救命治療研究会誌 2009; 13; 81-83	PMX-DHPによる活性化好中球の選択的吸着-培養ヒト気管支上皮細胞を用いた細胞障害に関する基礎的検討-	熊谷 常康	救命救急科
183	気管挿管ハンドブック 2009; p122-143	気管挿管以外の種々の気道確保法	中川 隆	救命救急科
184	気管挿管ハンドブック 2009; p224-229	気道確保の事故対策-MC協議会における事故症例での具体的対応-	中川 隆	救命救急科
185	臨床麻酔 2010; 34; 85-191	わが国におけるドクターヘリの現状と問題点	中川 隆	救命救急科
186	感染と抗菌薬 2010; 13; 31-35	症例別 ブロードからナローへ 重症感染症における抗菌薬治療のモデルケース 1)敗血症.	武山 直志	救命救急科
187	Journal of Clinical Rehabilitation 2010,19(1),25-29	急性期リハビリテーションの臨床からみた診療報酬の問題点	木村 伸也	リハビリテーション科
188	呼吸器ケア 2009,7(6),588-93	体位変換におけるアセスメントとモニタリング	岸川 典明	リハビリテーション部
189	バイオメカニクス研究 2009,13(4),229-41	少年野球選手における肩・肘関節障害	飯田 博己	リハビリテーション部
190	Am J Respir Cell Mol Biol	Up-regulation of surfactant protein production in a mouse model of secondary pulmonary alveolar proteinosis.	横井 豊治	病院病理部
191	Hypertension	Exercise training alters left ventricular geometry and attenuates heart failure in dahl salt-sensitive hypertensive rats.	横井 豊治	病院病理部
192	Exp Mol Pathol	RhoB enhances migration and MMP1 expression of prostate cancer DU145.	横井 豊治	病院病理部
193	Intern Med	Idiopathic pulmonary veno-occlusive disease.	横井 豊治	病院病理部
194	医学のあゆみ	閉塞性細気管支炎の病理	横井 豊治	病院病理部
195	病理と臨床	器質性肺炎パターン	横井 豊治	病院病理部
196	愛知県臨床検査技師会誌らぼ	肺癌におけるEGFR(Epidermal Growth Factor Receptor)の免疫組織学的及び分子病理学的検討	酒井 千早	病院病理部
197	愛知県臨床検査標準化ガイドライン	輸血検査における標準手順書	丹羽 玲子	輸血部
198	血液フロンティア	学会印象記 第16回日本輸血・細胞治療学会秋季シンポジウム	加藤 栄史	輸血部
199	J Anesth. 2010 Mar 10.	Low-dose gabapentin as useful adjuvant to opioids for neuropathic cancer pain when combined with low-dose imipramine.	Arai YC	学際的痛みセンター
200	J Anesth. 2010 Apr;24(2):317-8	Behavior of children emerging from general anesthesia correlates with their heart rate variability.	Arai YC	学際的痛みセンター

(注)1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

小計20件

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

No.	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
201	J Anesth. 2009;23(2):295-7.	Complex of branched cyclodextrin and lidocaine prolonged the duration of peripheral nerve block.	Arai YC	学際的痛みセンター
202	Acta Anaesthesiol Scand. 2009 May;53(5):607-10.	Increased heart rate variability correlation between mother and child immediately pre-operation.	Arai YC	学際的痛みセンター
203	Acta Anaesthesiol Scand. 2009 Mar;53(3):408.	Small correlation between salivary alpha-amylase activity and pain intensity in patients with cancer pain.	Arai YC	学際的痛みセンター
204	脊椎脊髄ジャーナル.2010 Feb;23(2)87-	脊椎脊髄外科学的機能診断と近年の基礎的神経生理学、そして痛み治療-その常識の大きな相違	牛田 享宏	学際的痛みセンター
205	Schizophrenia Frontier.2009.11;10(4)74-79	統合失調症とコンプレキシン-病態モデルをめざして-	西原 真理	学際的痛みセンター
206	J Surg Res.	Detection of elevated proteins in peritoneal dissemination of gastric cancer by analyzing mass spectra data of serum proteins.	吉川 和宏	細胞治療センター
207	Cancer Sci.	Low expression of microphthalmia-associated transcription factor, a potential molecular target for interferon-alpha susceptibility, is associated with metastasis in renal cell carcinoma.	吉川 和宏	細胞治療センター
208	東海脊椎外科 23巻 Page34-40 2009.04	当科における腰部脊柱管狭窄症に対する開窓術の手術成績	森 将恒	整形外科
209	東海脊椎外科 23巻 Page45-49 2009.4	関節リウマチによる環軸椎脱臼に対する手術治療 環軸椎固定から後頭骨頸椎固定への選択要因	神谷 光広	整形外科
210	整形外科 60巻12号 Page1239-1244 2009.11	脊椎骨巨細胞腫の手術的治療	神谷 光広	整形外科
211	日本脊椎脊髄病学会雑誌 20巻 Page739-42 2009.11	Surgical treatment for cervical spinal lesions in patients with rheumatoid arthritis -Advancement from 2000 onward-	Kamiya M	整形外科
212	最新整形外科学大系 8 手術 進入法-下肢。(第1版)東京:中山書店, Page244-51	下腿部への進入法:脛骨への内側進入法	本庄 宏司	整形外科
213	人工膝関節再置換術 一確かな機能の再建をめざして。(第1版)東京:メジカルビュー社, Page195-200 2009.5	画像で見る再置換術:膝蓋骨が原因で再置換術の適応となった症例	宮本 浩秀	整形外科
214	Orthopaedics 22巻7号 Page87-93 2009.6	【人工股関節再置換術】大腿骨側 Cement in cement手技を用いた大腿骨側再置換術のX線学的成績	大塚 博巳	整形外科
215	Orthopaedic Visual best 整形 外科手術テクニックII 股関節編。(第1版)大阪:メディカ出版, Page131-43 2010.3	Impaction bone grafting法を用いた人工股関節再置換術	大塚 博巳	整形外科
216	肩関節 33巻2号 Page271-275 2009.07	DAFF変法による鏡視下Bankart修復術の短期成績	岩堀 裕介	整形外科
217	肩関節33巻2号 Page289-292 2009.07	スーチャーアンカー法による鏡視下Bankart修復術の成績 腱板疎部縫縮の有無による比較	岩堀 裕介	整形外科
218	肩関節 33巻2号 Page537-540 2009.7	少年野球チームに対する投球障害予防活動の効果	大須賀 友晃	整形外科
219	中部日本整形外科災害外科学会雑誌 52巻4号 Page997-998 2009.7	治療方針の決定に難渋した中年者における陈旧性肩関節前方脱臼の1例	梶田 幸宏	整形外科
220	肩関節 33巻2号 Page547-549 2009.07	Beach chair positionによる肩関節鏡視下手術中の脳血流、脳波の変化	梶田 幸宏	整形外科

(注)1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

小計20件

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

No.	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
221	日本肘関節学会雑誌 16巻2号 Page88-90 2009.12	少年野球選手の上腕骨内上顆偽関節に骨接合を行った2症例	梶田 幸宏	整形外科
222	Hip Joint 35巻 Page294-297 2009.10.	進行期・末期股関節症に対する外反骨切り・臼蓋形成術の6~21年の成績	廣瀬 士朗	整形外科
223	日本人工関節学会誌 39巻 Page38-39 2009.12	第3世代セメンティング手技を用いた人工股関節置換術の成績	廣瀬 士朗	整形外科
224	日本人工関節学会誌 39巻 Page148-149 2009.12	セメント固定ステムの中期X線成績 エリートプラスとエクセターの比較	廣瀬 士朗	整形外科
225	Hip Joint 35巻 Page747-749 2009.10.	大腿骨近位部骨折地域連携バスの取り組みと課題	森島 達観	整形外科

(注)1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

小計5件

合計225件

(様式第12)

診療並びに病院の管理に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 伊藤 隆之
管理担当者氏名	医事課 中條 孝弘、病院管理課 杉浦 勝己、地域医療連携課 秋田 高典、 薬剤部 長谷川 高典、医療安全管理室 野朗 敏浪、感染制御部 三嶋 廣繁、 臨床工学部 羽生田正行

	保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録 病院日誌, 各科診療日誌, 処方せん, 手術 記録, 看護記録, 検査所見記録, エックス線 写真, 紹介状, 退院した患者に係る入院期間 中の診療経過の要約及び入院治療計画書	病院事務部 各科外来 薬剤部 中央カルテ室	病歴資料については、一患者一番号 でカルテと一体になっている。外来分 は各科外来、入院分は中央カルテ室 で保管している。	
病院 の 管 理 及 び 運 営 に 関 す る 諸 記 録	従業者を明らかにする帳簿	病院管理課	
	高度医療の提供の実績	医事課	
	高度医療技術の開発及び評価の実績	病院管理課	
	高度医療の研修の実績	病院管理課	
	閲覧実績	医療情報管理課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	地域医療連携課	
	入院患者数、外来患者数及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課 薬剤部	
	規則第1条の11第1項各号及び第9条の23第1項第1号に掲げる体制	医療に係る安全管理のための指針 の整備状況	医療安全管理室
		医療に係る安全管理のための委員 会の開催状況	医療安全管理室
		医療に係る安全管理のための職員 研修の実施状況	医療安全管理室
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全 の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理室 医療安全課
		専任の医療に係る安全管理を行う者 の配置状況	医療安全管理室
		専任の院内感染対策を行う者の配 置状況	感染制御部
	医療に係る安全管理を行う部門の設 置状況	医療安全管理室	
	当該病院内に患者から安全管理に 係る相談に適切に応じる体制の確保 状況	医療安全管理室	

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第1条の11第1項各号及び第9条の23第1項第1号に掲げる体制の確保状況		
	院内感染のための指針の策定状況	感染制御部	
	院内感染のための委員会の開催状況	感染制御部	
	従事者に対する院内感染のための研修の実施状況	感染制御部	
	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部	
	医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部	
	従事者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
	医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
	医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	臨床工学部	
	従事者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学部	
	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学部	
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学部		

(注) 「診療に関する諸記録」欄にはこの記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療の提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	病院事務部長 生田 芳文
閲覧担当者氏名	医事課長 中條 孝弘、病院管理課長 杉浦 勝己
閲覧の求めに応じる場所	会議室又は医療情報管理課中央カルテ閲覧室

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0件
閲覧者別	医師	延	0件
	歯科医師	延	0件
	国	延	0件
	地方公共団体	延	0件

○紹介患者に対する医療の提供の実績

紹介率	51.6%	算定期間	平成21年4月1日～平成22年3月31日
算出根拠	A : 紹介患者の数		16,831人
	B : 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		12,026人
	C : 救急用自動車によって搬入された患者の数		1,061人
	D : 初診の患者の数		45,941人

(注) 1 「紹介率」欄はA、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 A、B、C、Dはそれぞれの延べ数を記入すること。

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
・指針の主な内容 1 安全管理のための基本的な考え方 6 患者相談窓口の設置 2 安全管理の体制確保のための委員会 7 医療事故発生時の対応方法等 3 医療安全管理室の設置 8 安全管理のための職員研修 4 医療安全管理者の設置 9 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針 5 リスクマネージャーの設置	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 12 回
・活動の主な内容 1 医療の安全管理対策の検討及び推進に関すること。 2 医療の安全管理の情報交換に関すること。 3 医療の安全管理のための教育・研修に関すること。 4 その他医療安全管理に関すること。	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 29 回
・研修の主な内容 1 医療安全講演会「モラル退廃の時代における院内暴力への対応」 2 医療安全講演会「愛知医科大学病院における医療安全」 3 AEDを使用した心肺蘇生法(14回) 4 人口呼吸に関する医療事故防止対策(3回) 5 深部静脈血栓症・肺血栓塞栓症の予防と装置の使用法(1回) 6 気管切開チューブの概要と安全な使用方法(1回) 7 エコーを使用したCVカテーテル挿入法(1回) 8 呼吸療法に関する講習会(3回) 9 臨床研修医ガイダンス「当院の医療安全管理体制」(1回) 10 看護職員を対象とした各種医療安全に関わる研修(3回)	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
・医療機関内における事故報告等の整備 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 ・その他の改善のための方策の主な内容 1 新規採用職員に対する院内ルールの周知と教育方法の徹底 2 ポケットマニュアルの新規作成と職員配布 3 輸血を拒否する患者に対する治療方針の変更とホームページ掲載 4 警察OBの雇用と医療安全管理室への配置 5 「緊急事態発生時の緊急コール」の変更 6 手術時のタイムアウト開始 7 医療安全行動「いのちを守るパートナーズ」参加登録(CVカテーテル) 8 麻薬(内服薬・外用薬)管理方法の変更 9 アンビユーメンテナンスサービスを全部署へ適用 10 採血用穿刺器具の安全配備 ①グルテストエースの回収 ②穿刺具エースレットの回収とジェントレットへの変更配備 ③ファインタッチからファインタッチプロへの変更 11 形成外科手術患者の血液バンドの装着を徹底 12 眼科外来手術患者の眼洗浄事故から、再発防止策の徹底 13 浴室スロープ(鉄板製)をゴム製に変更配備 14 内視鏡検査における最終飲食確認のルール化 15 インシデント・アクシデントなどAMUSE報告入力システムの改善 ①ログインパスワードの廃止 ②入力形式一部修正 ③室員アクセス方法変更 16 当番医のAMUSE初画面表示 17 患者さんの呼称について、最周知 18 手術後における遺残確認のためのレントゲン撮影について注意喚起 19 その他、インシデントなど対策各種	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有(6名) <input type="checkbox"/> 無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有(5名) <input type="checkbox"/> 無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
・所属職員:専任(6)名 兼任(5)名 ・活動の主な内容 1 医療の安全を確保するための改善方策に関すること。 2 医療安全管理のための職員の教育・啓発に関すること。 3 医療事故発生時の対応に関すること。 4 医療安全管理委員会の円滑な運営に関すること。 5 医療安全管理に関する院内の連絡調整 6 その他医療安全管理に関する業務	
⑧ 当該病院内に患者から安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無

院内感染のための体制の確保に係る措置

① 院内感染のための指針の策定状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
-------------------	--

- ・指針の主な内容
1. 院内感染対策に関する基本的な考え方
 2. 院内感染のための委員会。その他の当該病院などの組織に関する基本方針
 3. 院内感染対策のための従業者に対する研修に関する基本方針
 4. 感染の発生状況の報告に関する基本方針
 5. 院内感染発生時の対応に関する基本方針
 6. 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針
 7. その他の当該病院等における院内感染対策推進のために必要な基本方針

② 院内感染のための委員会の開催状況	年 12 回
--------------------	--------

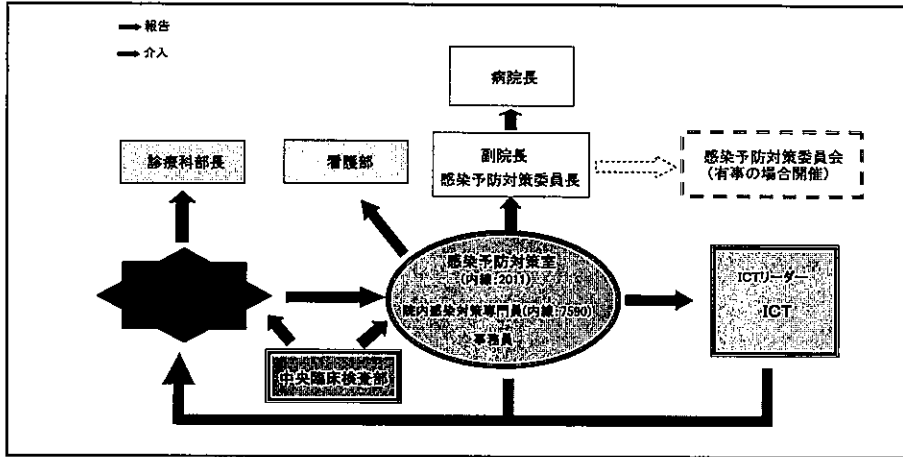
- ・活動の主な内容
1. 感染予防対策の確立に関すること。
 2. 感染予防の実施、監視及び指導に関すること。
 3. 感染予防の教育に関すること。
 4. 感染に関する事故等が発生した場合における原因究明に関すること。
 5. その他感染予防に関すること。
- 以上1～5に掲げる事項の審議

③ 従事者に対する院内感染のための研修の実施状況	年 23 回
--------------------------	--------

- ・研修の主な内容
- ・感染防止技術の基礎講座(7回)
 - ・ICT勉強会(6回)
 - ・看護部レベル別感染に関する研修会(2回)
 - ・補助職員研修会(1回)
 - ・その他院内講師による講演会(3回)
 - ・委託業者向け研修会(2回)

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	
---	--

- ・病院における発生状況の報告等の整備 有 無 ※下図参照
- ・その他の改善のための方策の主な内容



- ・ その他の改善のための方策の主な内容 :

SSIサーベイランスの実施, ICU全サーベイランスの実施, BSIサーベイランスの実施, 全病院サーベイランスの実施, ICTカドの実施, リンクナース活動などのサーベイランスの実施とフィードバック

医薬品の使用に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	☑ 有 ☐ 無
② 従事者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況 ・活動の主な内容 ・医療安全のための医薬品適正使用についての講義	年 1 回
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	年 1 回
<p>・手順書の作成 ☑ 有 ☐ 無</p> <p>・業務の主な内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医薬品の採用と購入に関する事項 2. 医薬品の管理に関する事項 3. 患者に対する医薬品の投薬指示から調剤に関する事項 4. 患者に対する与薬および服薬指導に関する事項 5. 医薬品の安全使用に関わる情報収集・管理・提供に関する事項 6. 在宅患者への医薬品使用に関する事項 7. 他施設との連携に関する事項 8. 医薬品安全使用のための業務手順書に関する研修の実施 <p>手順書に基づく業務の実施状況</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医薬品の採用と購入に関する事項 <ol style="list-style-type: none"> ①1回/月、薬事委員会を開催した。 ②薬事委員会の規約を改正し、看護部と事務部の代表を委員に加えた。 ③名称類似による間違いを防止するために、採用薬を一部変更した。 ゾビラックス注(ゾラデックス注と類似)→ピクロックス注、 タキソール注(タキソテール注)→パクリタキセルNK注 ④高カリウム濃度製剤(KCL注40mEq/20mL)をKCLキット10mEq/10mLに変更した。 ⑤ジェネリック医薬品の採用を拡大した。 ⑥静注用ヒト免疫グロブリン製剤を統一した。 2. 医薬品の管理に関する事項 <ol style="list-style-type: none"> ①外来化学療法センターを設置し、外来化学療法は、レジメン審査委員会で審査し、承認されたレジメンを施行することにした。 ②入院化学療法についても、レジメン登録し、医師、薬剤師、看護師などのガン化学療法に関わる医療者での情報共有を図った。 ③入院化学療法では、病棟担当薬剤師がレジメンに基づいたがん化学療法ワークシートを作成し患者と面談し、投与規制項目を確認し安全に施工されるようにした。 ④薬品管理チェックリストを作成し、定期的に、病院全科の医薬品の品質と保管状況・安全情報配布状況を巡回指導した。 ⑤ハイリスク薬の取り扱い手順書を作成し、院内で統一した。 ⑥毒薬・向精神薬取扱いマニュアルを改訂し、毒薬と向精神薬第1種と2種については、施用後の空アンプル確認を行った。 ⑦病棟における麻薬の適正管理のために、看護師と薬剤師が共有できる麻薬管理簿を作成し運用した。 ⑧手術室にサテライトファーマシーを設置し、薬剤師により手術室で使用する麻薬を含む医薬品は、手術毎(患者毎)に取り揃えリストに基づいて取り揃えて払い出した。 3. 患者に対する医薬品の投薬指示から調剤に関する事項 <ol style="list-style-type: none"> ①調剤は、処方せんに基づき調剤内規および調剤業務の手順に基づいて行った。 ②持参薬の確認方法を定め、医師の指示のもとに使用している。 ③注射薬は、個人別に使用毎にセットし、病棟担当者が監査し払い出している。 ④疑義紹介は、必要時、処方した医師に行っている。 ⑤インシデント報告:インシデント報告されたもののうち、重要なものは、改善策を講じた。 (ベンゾジアゼピン系薬剤の相互作用など) 4. 患者に対する与薬および服薬指導に関する事項 <ol style="list-style-type: none"> ①配薬:患者に処方される投薬は、臨時処方薬も含め、病棟の配薬車に薬剤師が配薬し、看護師が予薬し二重にチェックしている。 ②副作用モニター ③投与前確認:抗ガン剤投与前の患者のバイタルや検査値など投与規制因子を病棟薬剤師がチェックしている。 ④手術前など:手術前投与中止薬の確認を病棟薬剤師と手術室専任薬剤師でチェックしている。 ⑤持参薬の投薬:持参薬については、医師、薬剤師がチェックし、医師の指示のもと必要な薬剤師は使用している。 	

5. 医薬品の安全使用に関わる情報収集・管理・提供に関する事項

- ①情報の提供:院内で収集した情報や、厚労省などから収集した情報は、院内オーダリングシステムAMUSEの医薬品情報に入れてオーダリングシステムを使用する医療従事者に提供している。また、至急に伝達する必要がある場合には、院内メールシステムで、医師、看護師、薬剤師等の医療従事者に提供している。また、重要度の高いものは、オーダリングシステムの初期画面に Drug Messageに、「使用注意薬品です。ご注意ください」と提示し、目に触れやすい形式で提供している。
- ②情報の収集:(1)厚労省や、日本医療機能評価機構、製薬メーカー等から収集した医薬品情報は、医薬品情報管理室の薬剤師から、メールで配信している。また、書面などは、ファイルし、部員室と、医薬品情報管理室の決まった場所に置いている。(2)院内で発生した重大な副作用の情報は、「医薬品安全使用のための業務に関する手順書(医薬品業務手順書)」に定められているように、医療安全管理室から医薬品安全管理者を通して薬剤部に連絡される。また、医薬品情報管理室が入手した医薬品安全情報は、医療安全管理室をはじめ院内にメール等で配信している。
- ③副作用報告:2008年 4件把握している。

6. 在宅患者への医薬品使用に関する事項

7. 他施設との連携に関する事項:地域中核病院として、医薬品適正使用の講演会を地域病院の主に薬剤師を対象に開催した。
8. 医薬品安全使用のための業務手順書に関する研修の実施:新任医師および薬剤師を対象に実施した。

④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

・医薬品に係る情報の収集の整備 有 無

・その他の改善のための方策の主な内容

1. ソラデックス注(乳がん用薬)とソピラックス注(抗ウイルス薬)の名称類似による間違いを防止するために、ソピラックスを「ピクロックス注」に変更した(平成18年)。
2. 外来化学療法室(外来化学療法センターに名称変更)が設置された。外来化学療法はレジメン審査委員会で審査し、承認されたレジメンを施行することとした。
3. 医薬品適正使用と看護師業務の軽減化を目的として、21名の薬剤師を増員し、病棟に常駐させた(平成19年)。内服薬のセットを開始した。
4. 医薬品の安全使用のための業務手順書およびチェックリストを作成した(平成19年)。
5. 持参薬は医療安全の観点から使用しないことに加え、病棟薬剤師が持参薬をチェックすることが決定した(平成19年)。持参薬の確認は、患者の服用歴を調査し、必要な場合には再調剤まで行うこととした。
6. 高カリウム濃度製剤「KCL注40 mEq/20 mL」を「KCLキット10 mEq/10 mL」に変更した(平成19年)。
7. JUS-DIをオーダリングシステムの医薬品情報に導入した(平成20年)。
8. 複数規格ある薬剤の採用取消しと小頻度使用医薬品の削減を行っている(薬事委員会、平成20年から実施)。
9. 病棟における麻薬の適正管理のために、看護師と薬剤師が共有できる麻薬管理簿を作成した(平成20年)。
10. 手術室の医薬品の適正管理を行うために、手術室にサテライトファーマシーを設置した(平成20年)。また、ICUに加えて、NICUおよびHCUにも専任薬剤師を配置した。
11. 各病棟の注射薬個人払い出しは、病棟で使用される医薬品を確認・把握するために、その病棟担当薬剤師が行うこととした(平成20年)。
12. 抗がん剤「タキソテール注」と「タキソテール注」の名称が類似することから、「タキソール注」を「パクリタキセル注」に変更した(平成20年)。
13. 静注用人免疫グロブリン製剤(ヴェノグロブリンH、グロベニン、ベニロンI)を日赤のポリグロブリンN「日赤」に統一した(平成20年)。
14. 全病棟での抗がん剤の混注を行うことを目的に、モデルとして消化器外科病棟における抗がん剤の混注業務を外来化学療法センターにおいて開始した(平成20年)。
15. 抗がん剤の処方・調剤・与薬のプロセスにおけるエラーを防止するために、レジメンを登録しレジメンを組み入れたクリニカルパスを作成し運用した(平成20年)。
16. 手術室での麻酔科医師の業務軽減化のために、手術室サテライトファーマシーにて筋弛緩薬や麻薬の混注業務を開始した(平成21年)。
17. がん化学療法を適正に行うにあたり、がんに関する知識の習得を目的として、当院のがん専門医師の講義を25回開催した(平成21年)。
18. 血糖降下薬であるメホルミン製剤とヨード系造影剤との相互作用およびサリドマイド製剤の医療事故に対応するためのマニュアルを作成した(平成21年)。
19. インフルエンザが流行し、休日での救急外来に受診するインフルエンザ感染患者数が多いため、その治療薬であるリレンザの吸入指導に多くの時間が費やされている。救急外来の申請に応じて日曜日及び休日の8:30~20:00まで、薬剤師が吸入指導を行う体制をとった(平成21年)。
20. 抗がん剤の血管外漏出に対して的確に、かつ迅速に対応するための「抗がん剤の血管外漏出の対応マニュアル」を作成し外来化学療法センター並びに病棟等に配布した(平成21年)。
21. 医薬品適正使用を推進するために最も重要な学問である薬物動態学を理解することを目的に、「薬物相互作用のABC」および「臨床薬物動態学のABC」の総説を愛知県病院薬剤師会雑誌に寄稿し、当院各病棟にも配布した(平成21年)。
22. ハイリスク薬の点滴速度の医療過誤を防止するために、重要なハイリスク薬の投与方法に関する一覧表を病棟に配布した(平成21年)。
23. 全病棟に薬剤師を常駐させ、患者に安全で適正な医療を提供できるチーム医療を推進させた(平成21年)。
24. 抗がん剤の人体暴露を防止するために、閉鎖式抗がん剤調整器具を導入した(平成22年)。
25. 毒薬・向精神薬管理マニュアルを改訂し、毒薬および向精神薬第1種2種については、施用後の空アンプル確認を薬剤部で行うこととした(平成22年)。
26. 麻薬、向精神薬および毒薬の安全管理を目的として、入院調剤室に隣接する部屋で管理することにした(平成22年)。
27. 持参薬は、原則しないこととなっていたが、薬剤師による持参薬の確認が、ほぼ全病棟で実施できることから持参薬は使用することとなった(平成22年)。
28. 医薬品保管棚をすべて変更し、ハイリスク薬、劇薬などの保管管理を改善した(平成22年)。
29. 医療過誤を防止するために、ノルバスク錠と名称が類似するノルバデックスを「タスオミン」に切り替えた(平成22年)。
30. インスリン製剤の病棟保管はヒューマリンRのみとした(請求伝票に基づく)。他のインスリン製剤は患者毎の入院処方せんで払い出し、患者毎の管理とした(平成22年)。
31. 入院および外来患者に対する抗がん薬の調製は、原則として化学療法センターの調製室で行うこととした(平成22年)。
32. 看護部と協働で、入院患者の内服薬管理マニュアルを作成し、患者が安全に確実に服用できるシステムを構築した(平成22年)。
33. 入院患者の抗がん剤調製のため、安全キャビネットを1台増設し、安全で、かつ適正な抗がん剤調製を開始した(平成22年)。
34. 麻薬の適正保管管理のために金庫を1台増設した(平成22年)。
35. ケーチューシロップの誤静注投与防止のために、病棟及び外来に本剤の在庫を置かないこととし、薬剤部で調製し渡すこととした(平成22年)。
36. 治験薬の品質保証(28℃保持)のためエアコンを設置した(平成22年)。

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
② 従事者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 40 回
<p>・活動の主な内容</p> <p>医療職員に対する人工呼吸器・輸液ポンプ・シリンジポンプ使用に関する安全講習</p> <p>新規導入機器使用説明会(麻酔器・IABP・人工心肺装置等)</p> <p>専任技士対象:体外循環技術教育人工臓器セミナー・透析装置メンテナンス講習会・心臓ペースメーカー講習会</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	休日以外の毎日(機種による)
<p>・手順書の作成 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無</p> <p>・業務の主な内容</p> <p>人工呼吸器定期点検・使用後点検・使用中点検</p> <p>蘇生バック使用後点検</p> <p>麻酔器定期点検・マンスリー点検</p> <p>人工心肺装置使用前点検</p> <p>PCPS定期点検</p> <p>IABP使用後点検</p> <p>除細動装置定期点検・マンスリー点検</p> <p>AED・マンスリー点検</p> <p>放射線治療装置定期点検・日常点検</p> <p>保育器定期点検</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・医療機器に係る情報の収集の整備 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無</p> <p>・その他の改善のための方策の主な内容</p> <p>医薬品医療機器情報配信サービスをうけ、関係部署に通知及び改善を促している。</p>	